

## 著者紹介

山口 富子 (やまぐち とみこ)

国際基督教大学教養学部上級准教授。2004年ミシガン州立大学社会学部博士課程修了。専門は農業食料社会学、科学技術社会論。主な著作に『萌芽する科学技術——先端科学技術への社会学的アプローチ』京都大学学術出版会（日比野愛子氏と共編著、2010年）、「フードナノテクノロジーの社会実装の道付け」『フードナノテクノロジー』シーエムシー出版（2009年）、「Challenge of Nanotechnology-Derived Food in the Human Society」 in Bagchi et al. (eds.) *Bio-Nanotechnology: A Revolution in Food, Biomedical and Health Sciences*, Wiley-Blackwell, 2012; “Changing Social Order and the Quest for Justification: GMO Controversies in Japan,” *Science, Technology, and Human Values*, Vol. 35, 2009. などがある。

中野 佑一 (なかの ゆういち)

東京学芸大学教育学部非常勤講師。上智大学総合人間科学部社会学科研究補助員。上智大学大学院総合人間科学研究科社会学専攻博士課程在籍中。2005年、国際基督教大学教養学部社会科学科卒業。2005年から2007年まで「国際社会調査実習」非常勤副手を担当、2008年から現在に至るまで「質的社会学分析」などのTAを担当する。専門は都市社会学、地域社会学、犯罪社会学。主な著作に「タウンセキュリティを用いた住宅地の防犯体制——防犯理論の背景と社会学的分析」『上智大学社会学論集』34（2010年）、「日本における防犯環境設計の受容——都市空間における防犯のインフラ化」『上智大学社会学論集』36（2012年）、「デヴィッド・ハーヴェイ」「ゲートッド・コミュニティ」中筋直哉・五十嵐泰正編『よくわかる都市社会学』ミネルヴァ書房（2013年）などがある。

川口 遼 (かわぐち りょう)

一橋大学大学院社会学研究科博士課程在籍中。2007年、国際基督教大学教養学部社会科学科卒業。2008年より現在まで「質的社会学分析」、「計量社会学分析」、「社会学的研究へのアプローチ」のTAを断続的に務めている。専門はジェンダー・セクシュアリティの社会学、男性性研究。主な論文に「男性学における当事者主義の批判的検討」国際基督教大学ジェンダー研究センター編『Gender & Sexuality』3（2008年）、「男性性間の階層的関係とジェンダー秩序——ヘゲモニックな男性性概念の再検討」日本女性学会編『女性学』19（2012年）などがある。

今林 寛之 (いまばやし ひろゆき)

首都大学東京大学院人文科学研究科博士前期課程在籍中。2009年、国際基督教大学教養学部国際関係学科卒業。2010年より現在まで「質的社会学分析」、「社会学的研究へのアプローチ」のTAを務めている。専門は都市社会学、地域社会学。